

第32回 BELCA賞ベストリフォーム部門受賞建築物選考評

中部電力 MIRAI TOWER (名古屋テレビ塔)

所在地：愛知県名古屋市中区
錦3-6-15先

竣工年：1954年

改修年：2020年

用途：[改修前]

電波鉄塔、展望台

[改修後]

ホテル、展示場、

飲食店、事務所、

展望台

建物所有者：名古屋テレビ塔株式
会社

改修設計者：株式会社 日建設計

改修施工者：株式会社 竹中工務店



名古屋テレビ塔は、内藤多仲の設計による日本初の集約電波塔として、戦後1954年（昭和29年）に建設され、戦後復興・都市計画のシンボルとなり、以降、街のシンボルとして市民に長く愛されてきたテレビ塔である。2011年（平成23年）、アナログ放送終了に伴い放送局が撤退。新たに観光事業を重点とし運営する観光タワーという明確なビジョンのもと、2020年（令和2年）、長期的な存続に向けた全体改修工事にてリニューアルオープンに至っている。南北2kmに及ぶ久屋大通りに立ち、再整備された公園Hisaya Odori Parkと連なり南北へとビスタが抜ける塔の脚もとは、多くの市民が行き交う賑わいの場となっている。

電波塔としての役割を終えるにあたり、電波鉄塔を世界からの人を迎えるホテルや市民が集う飲食・商業施設として一新、また高さ180mの細い組立鉄骨部材による繊細な外観を守り蘇生する難しい耐震改修を、基礎免震レトロフィットにより新たに考案された「浅層免震化工法」と「柱脚緊結タイビーム」にて実現。見事に足元の解放空間を保ち塔体はそのままの完全な姿を残している。塔体の自重で脚が外に広がらないようRC地中梁で拘束されていた4か所の既存塔脚を新設の鉄骨タイビームで緊結し、直下にある地下鉄函体を避け4本の柱脚それぞれに最小の免震ピットを設ける工法により、掘削土量の大幅な削減の他、他に類をみない高い施工技術にて、経済的、合理的に難題を解決している。併せてその内部の用途変換に伴い、工作物であった塔体を建築物として建築基準法に遵法化し、2-3階の放送機器室をレストラン・ショップに、4-5階はホテルへとコンバージョン。さらに避難階段、設備シャフトまた主動線となるエレベーター等の縦シャフト系をタワー西側に別棟として増築集約することで、既存鉄塔内部の有効エリアを最大化し、貸し床としての利用価値を高め事業性を向上している。それは、将来へ向けたフレキシビリティの高いコンバージョンにも対応できる長寿命化が図られていると言える。ホテルインテリアは、既存テレビ塔の内部にあった構造鉄骨材の垂直部材や斜材を新規に認定取得した耐火塗料で現しとすることで、むしろ鉄骨の組材が生かされた魅力的な独自のデザインを獲得している。世界で唯一のタワー内のホテルとしても注目されている。

来塔する人々に育まれてきた変わらないものの価値を持続し、その一方でコンテンツは変わり続ける。地域の活性化を促進するMIRAI TOWER・新しい名古屋のシンボルとして、長期に渡って塔体の安全性を保つための、また文化財建造物であることを鑑みた維持保全計画書が策定されている。未来へ向けた関係者の高いモチベーションと熱意に、真に敬意を表するものである。